

マンション管理への女性の参加を考える

摂南大学 理工学部住環境デザイン学科 講師 山根聡子



『存在しない女たち』男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く『キャロライン・クリアド』ベレス著、神崎朗子訳、河出書房新社、2020年』という本があります。著者は多くの事例を引いて、私たちが生きていく上で必要とする様々な製品、道路や公共施設等の社会インフラ、あるいはそれらの運営に関わる機構や制度は、男性が中心となっている現在の社会システムの中でデザインされており、そもそも想定している利用者像（基準値）にバイアスがかかっていることを示します。このため女性

は周縁化され、多くの場面で不利益を被っているというのが著者の主張です。同書では住まいの問題はあまり取り上げられていませんが、住まいや街の整備とその運営にも同様の偏りが潜んでいるのではないかと感じることがあります。その一つが分譲マンション（以降マンションと表記）の運営管理です。ご存じの方も

多いと思いますが、マンションでは一つの建物の中に複数の住戸があり、それぞれ別個の区分所有者がいます。各住戸内部も夫、つまり男性が多くは専有部分と呼ばれ、清掃や修繕、模様替え等の維持管理は各区分所有者が行います。一方、住戸の外の共用廊下や階段、ロビー、エレベーター、給排水設備等は共用部分と呼ばれ、区分所有者全員で共同管理を行いますが、そのための機構として、私の研究室で、マンションは一人暮らしの80代の女性が多いのですが、マンションでは一つの建物の中に複数の住戸があり、それぞれ別個の区分所有者がいます。各住戸内部も夫、つまり男性が多くは専有部分と呼ばれ、清掃や修繕、模様替え等の維持管理は各区分所有者が行います。一方、住戸の外の共用廊下や階段、ロビー、エレベーター、給排水設備等は共用部分と呼ばれ、区分所有者全員で共同管理を行いますが、そのための機構として、私の研究室で、

女性へのバイアス、住まいにも

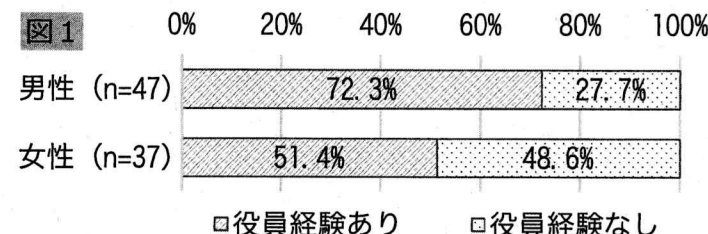


図1 マンション居住者の役員経験（2002年、大阪府内の分譲マンション70棟へ各10件、計700件配布）

図2 マンション居住者の役員経験（2002年、大阪府内の分譲マンション70棟へ各10件、計700件配布）

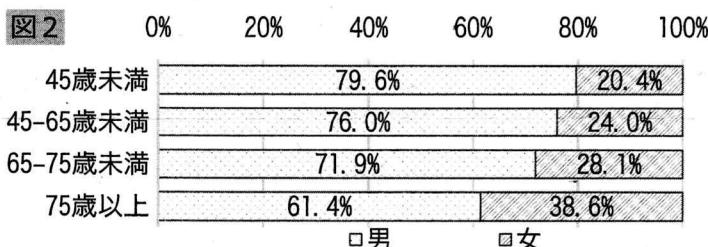


図2 マンション居住者の世帯主の男女別・年齢別の状況（「令和5年住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）より作成）